

表 2.3(2) 主要な藻場の概要

対象海域 名称	都道府県	藻場名称	藻場タイプ								疎密度	面積 (ha)	
			アマモ 場	ガラモ 場	コンブ 場	アラメ 場	ワカメ 場	テング サ場	アオ サ・ア オノリ	その他			不明
広島湾西部	山口県	浮島東	○	○						○		疎生	2.0
広島湾西部	山口県	浮島(江ノ浦)	○	○						○		密生	1.0
広島湾西部	山口県	浮島(楽江)		○						○	○	疎生	1.0
広島湾西部	山口県	大崎鼻	○							○	○	疎生	1.0
広島湾西部	山口県	長浜	○	○							○	疎生	1.0
広島湾西部	山口県	日前	○							○		疎生	1.0
広島湾西部	山口県	飛瀬島		○							○	疎生	1.0
広島湾西部	山口県	符崎の鼻	○	○							○	疎生	1.0
広島湾西部	山口県	油良	○							○		疎生	7.0
広島湾西部	山口県	我島		○							○	疎生	1.0
広島湾西部	山口県	真宮島	○							○	○	密生	6.0
広島湾西部	山口県	森	○	○						○		密生	1.0
広島湾西部	山口県	前小島		○								疎生	1.0
広島湾西部	山口県	中小島		○								疎生	1.0
広島湾西部	山口県	ハンド島		○								疎生	1.0
広島湾西部	山口県	乙小島		○								疎生	1.0
広島湾西部	山口県	鍋島		○								疎生	1.0
広島湾西部	山口県	田ノ尻、横山	○	○						○		疎生	2.0
広島湾西部	山口県	神浦	○							○	○	疎生	1.0
広島湾西部	山口県	厨子ヶ鼻	○	○						○	○	密生	6.0
広島湾西部	山口県	満島		○					○		○	密生	1.0
広島湾西部	山口県	小伊保田	○	○					○	○	○	密生	3.0
広島湾西部	山口県	松ヶ鼻	○	○		○			○		○	密生	1.0
広島湾西部	山口県	雨振	○	○							○	密生	6.0
広島湾西部	山口県	金丸		○		○			○		○	疎生	1.0
広島湾西部	山口県	情島西岸	○	○		○			○		○	疎生	1.0
広島湾西部	山口県	岩国基地堤防前(沖合)	○									密生	13.2
広島湾西部	山口県	門前河口(左岸)	○							○		疎生	2.0
広島湾西部	山口県	門前河口(中央)	○							○	○	密生	15.0
広島湾西部	山口県	黒磯	○	○						○	○	疎生	14.0
広島湾西部	山口県	通津		○					○	○	○	疎生	1.0
広島湾西部	山口県	南沖	○	○					○	○		疎生	2.0
広島湾西部	山口県	神東	○									密生	3.0
広島湾西部	山口県	公門所	○							○		疎生	2.0
広島湾西部	山口県	浜	○	○						○		密生	3.0
広島湾西部	山口県	宗光	○							○	○	疎生	2.0
広島湾西部	山口県	幣振島		○		○					○	疎生	1.0
広島湾西部	山口県	田ノ尻鼻	○			○					○	疎生	1.0
合 計												282.4	

注1) 対象藻場 ・面積が1ha以上であること。
・水深が10m以浅に分布すること。

注2) 藻場タイプ アマモ場: アマモ、コアマモ等が代表種(優占種)となっている藻場。
ガラモ場: ホンダワラ類・ウミトラノオ等が代表種(優占種)となっている藻場。
アラメ場: アラメ・カジメ・クロメ等が代表種(優占種)となっている藻場。
ワカメ場: ワカメ・ヒロメ等が代表種(優占種)となっている藻場。

注3) 疎密度: 濃生: 海底面がほとんど植生で覆われている。
密生: 海底面より植生の方が多。
疎生: 植生より海底面の方が多。

出典: 環境省 (第5回自然環境保全基礎調査 平成9~13年度)

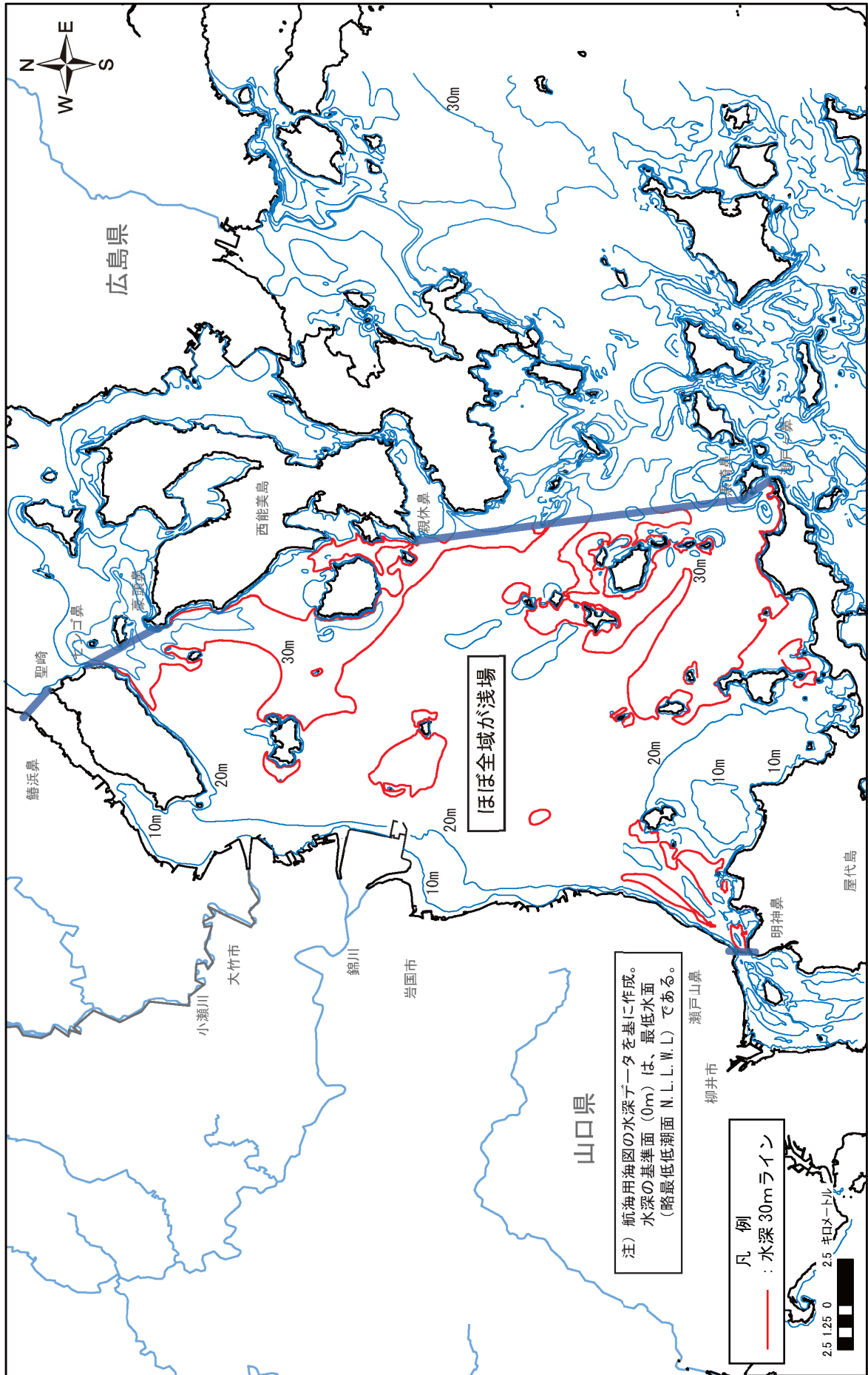
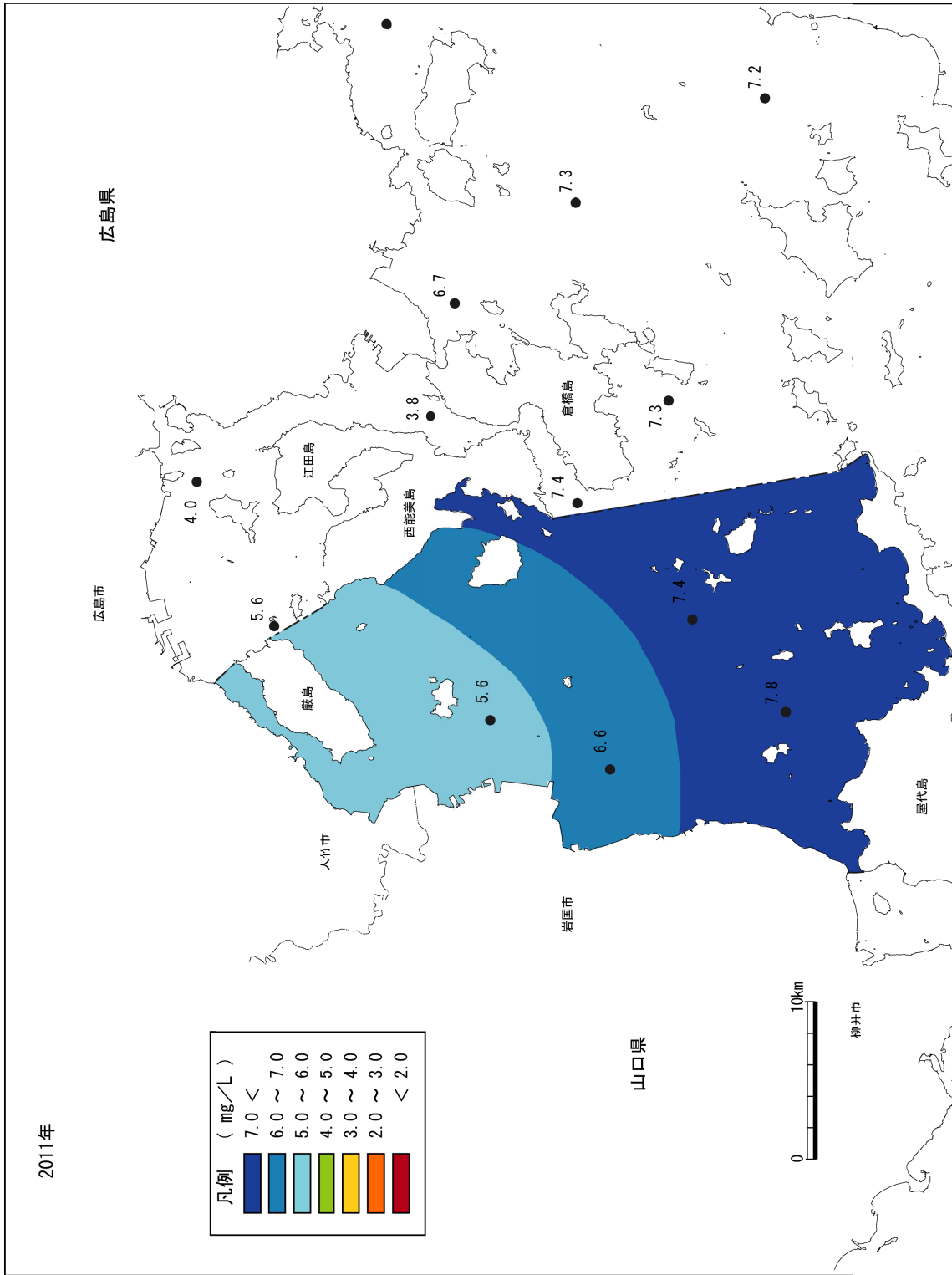


図 2.7 主な浅場



注1) 平成20~25年の夏季后層DOのうち、DO濃度分布が最も悪化した平成23年を掲載した。

注2) 測定位置：海底直上1m 出典：環境省広域総合水質調査結果

図2.8 夏季后層DOの分布状況（平成23年）

表 2.4 主要魚介類の選定結果

①瀬戸内海における主な魚介類	②周年定住種	③漁獲量上位種	④保護水面对象種	⑤産卵場・生育場が藻場・干潟等特定域に該当する種	⑥選定結果	選定理由
魚類						
イカナゴ	○		保護水面あり(対象種：水産動植物)			
コノシロ	○	○				
マコガレイ	○	○		○	◎	生育場が干潟に依存する。
イシガレイ	○	○		○	◎	生育場が干潟に依存する。
メイタガレイ	○	○				
ヒラメ	○			○		
タマガンゾウビラメ						
イヌノシタ						
クロダイ	○	○				
マダイ	○	○		○	◎	生育場が砂浜性藻場に依存する。
ヘダイ		○				
イボダイ	○					
スズキ	○	○		○	◎	生育場が砂浜性藻場に依存する。
アカカマス		○				
イサキ		○				
シイラ		○				
ニベ	○	○				
シログチ	○	○				
ペラ	○					
カサゴ	○			○		
メバル	○			○		
アイナメ	○					
トカゲエソ	○					
マエソ						
サワラ	○					
マナガツオ						
カタクチイワシ(シラス)		○				
タチウオ		○				
マサバ		○				
マアジ		○				
マルアジ						
ブリ		○				
マイワシ		○				
ハモ						
マアナゴ		○				
ウナギ						
ボラ						
カワハギ						
トラフグ	○					
シロザメ						
アカエイ						
マダコ	○	○				
イイダコ	○	○				
テナガダコ	○	○				
コウイカ	○	○				
スルメイカ						
イカ・タコ類						
ガザミ	○			○		
シャコ	○					
エビ・カニ類						
クルマエビ	○			○		
アカエビ	○					
キシエビ						
ヨシエビ	○					
貝類						
アサリ	○	○		○	◎	産卵場・生育場が干潟に依存する。
アカガイ	○					
サルボウ	○			○		
タイラギ	○					
トリガイ	○					
バカガイ	○			○		
ハマグリ	○			○		
マテガイ	○					
サザエ	○			○		
棘皮類						
マナマコ	○	○				

①主な魚介類：以下の文献により抽出した。
 「瀬戸内海の生物資源と環境（岡市ら, 1996）」
 「瀬戸内海のさかな（瀬戸内海水産開発協議会編, 1997）」
 「日本全国沿岸海洋誌（日本全国沿岸海洋研究会編, 1985）」
 ②周年定住種：以下の文献を参考に判断した。
 沿岸至近域における海洋生物の生態知見（魚類・イカタコ類編）（（財）海洋生物研究所, 1991）
 沿岸至近域における海洋生物の生態知見（貝類・甲殻類・ウニ類編）（（財）海洋生物研究所, 1991）
 新版魚類学（下）改訂版（落合明・田中克, 1998）
 水産生物の生活史と生態（（社）日本水産資源保護協会, 1985）
 水産生物の生活史と生態（続）（（社）日本水産資源保護協会, 1986）
 水生生物生態資料（（社）日本水産資源保護協会, 1981）
 水生生物生態資料（続）（（社）日本水産資源保護協会, 1983）
 ③漁獲量上位種：②の魚種のうち、「瀬戸内海区及び太平洋南区における漁業動向（平成7年～16年）中国四国農政局統計部」の漁獲量が50位以内の種。
 ④保護水面对象種：水産資源保護法に基づく保護水面として指定された水域がある場合、その対象魚種。
 ⑤産卵場・生育場が藻場・干潟・サンゴ礁の特定域に該当する種
 魚介類の生態特性により、産卵場あるいは生育場のいずれかにおいて、砂浜性藻場、岩礁性藻場、干潟、サンゴ礁のいずれかを利用するものに○を付した。岩礁性藻場、岩礁域のいずれも利用するものは特定の場に依存するとはしていない。
 ⑥選定結果：②～⑤全ての項目に該当する魚介類。

表 2.5 主要魚介類（5種）の生態特性

分布域
分布域(水深情報不足)

主要魚介類	卵形態	水深	産卵場	主な分布状態				幼稚魚の分布域(底質環境)										
				卵	仔魚期	稚魚期	泥	干潟	砂・泥	アマモ場	砂・礫	岩礁	アラメ場	カンメ場	ガラモ場	コンブ場	その他藻場	その他
スズキ	分離浮性卵	表層	浮遊生活(沿岸域) (仔魚後期はアサギ場・河口湾周辺に移動する)	浮遊生活(沿岸域)	稚魚期	稚魚期	泥	干潟	砂・泥	アマモ場	砂・礫	岩礁	アラメ場	カンメ場	ガラモ場	コンブ場	その他藻場	その他
		表層下→10m																
		11~20m																
		21~30m																
		31~40m																
		41~50m																
51m~																		
マコガレイ	付着性卵	表層	岩礁域(外海からの影響を受ける水深50~80m)	海底塊状粘着	仔魚期	稚魚期	泥	干潟	砂・泥	アマモ場	砂・礫	岩礁	アラメ場	カンメ場	ガラモ場	コンブ場	その他藻場	その他
		表層下→10m																
		11~20m																
		21~30m																
		31~40m																
		41~50m																
51m~																		
イシガレイ	分離浮性卵	表層	内海(水深30m以上の泥質域)	浮遊生活(沿岸域)	仔魚期	稚魚期	泥	干潟	砂・泥	アマモ場	砂・礫	岩礁	アラメ場	カンメ場	ガラモ場	コンブ場	その他藻場	その他
		表層下→10m																
		11~20m																
		21~30m																
		31~40m																
		41~50m																
51m~																		
マダイ	分離浮性卵	表層	岩礁域(水深30~100m)	浮遊生活(仔魚後期・水深10m前後)	仔魚期	稚魚期	泥	干潟	砂・泥	アマモ場	砂・礫	岩礁	アラメ場	カンメ場	ガラモ場	コンブ場	その他藻場	その他
		表層下→10m																
		11~20m																
		21~30m																
		31~40m																
		41~50m																
51m~																		
アサリ	分離浮性卵	表層	内海・内海の深間帯~10mまでの砂泥域	浮遊生活(沿岸域)	仔魚期	稚魚期	泥	干潟	砂・泥	アマモ場	砂・礫	岩礁	アラメ場	カンメ場	ガラモ場	コンブ場	その他藻場	その他
		表層下→10m																
		11~20m																
		21~30m																
		31~40m																
		41~50m																
51m~																		

出典: 沿岸至近域における海洋生物の生態知識(藻類・イカコ類編) (財)海洋生物研究所, 1991
 新原真樹子(下)改訂版 (養春社・田中克, 1995)
 水産生物の生活史と生態 (社)日本水産資源保護協会, 1985)
 主要対象生物の繁殖段階の生態的知見の収集整理 (平成18年度水産基礎情報調査委託事業報告書・水産庁2006)

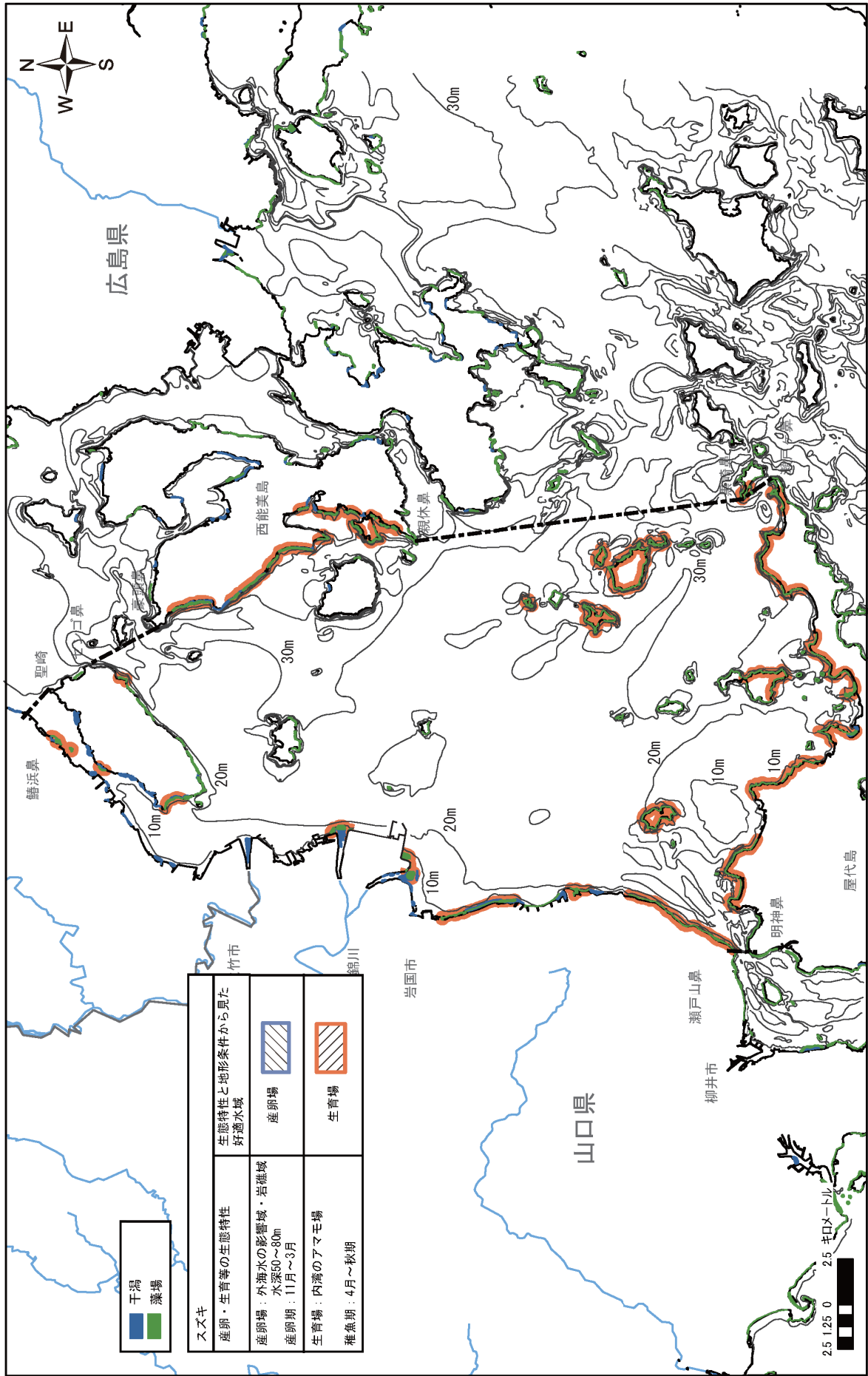


図 2.9(1) スズキの生態特性・海域の地理条件・水質条件から見た好適な水域（産卵場・生育場）

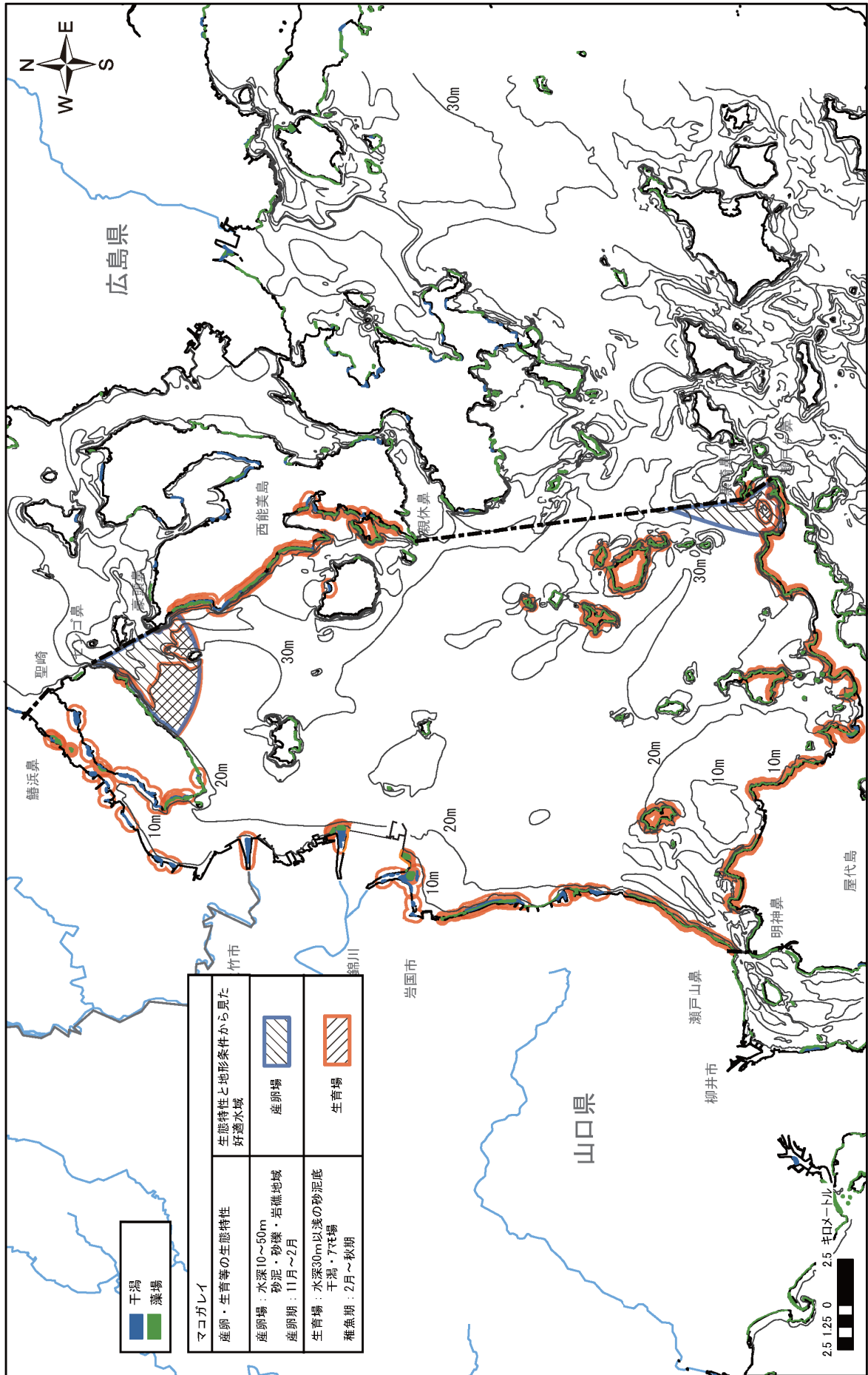


図 2.9 (2) マコガレイの生態特性・海域の地理条件及び水質条件から見た好適な水域（産卵場・生育場）

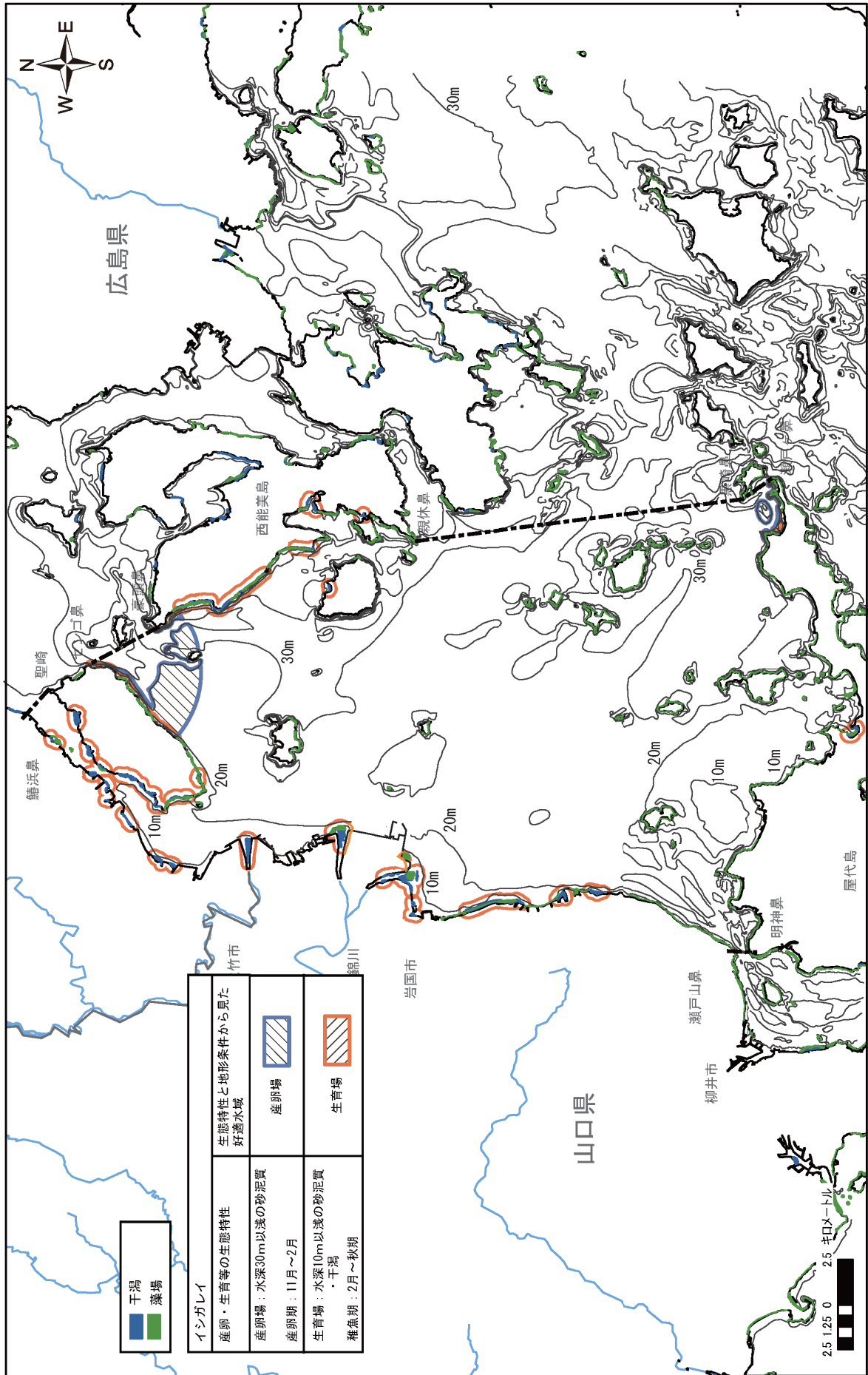


図 2.9 (3) イシガレイの生態特性・海域の地理条件及び水質条件から見た好適な水域（産卵場・生育場）

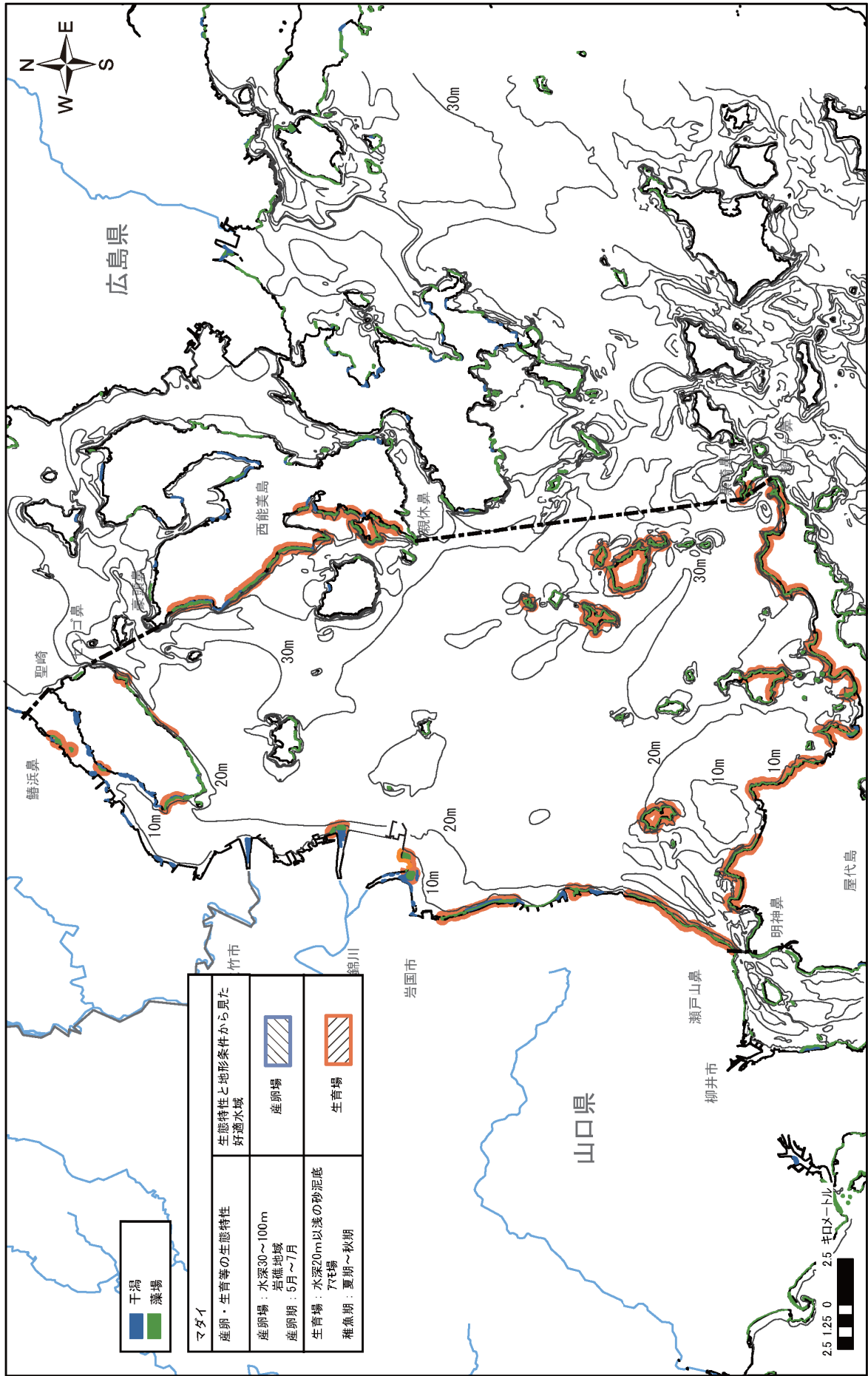


図 2.9(4) マダイの生態特性・海域の地理条件及び水質条件から見た好適な水域（産卵場・生育場）

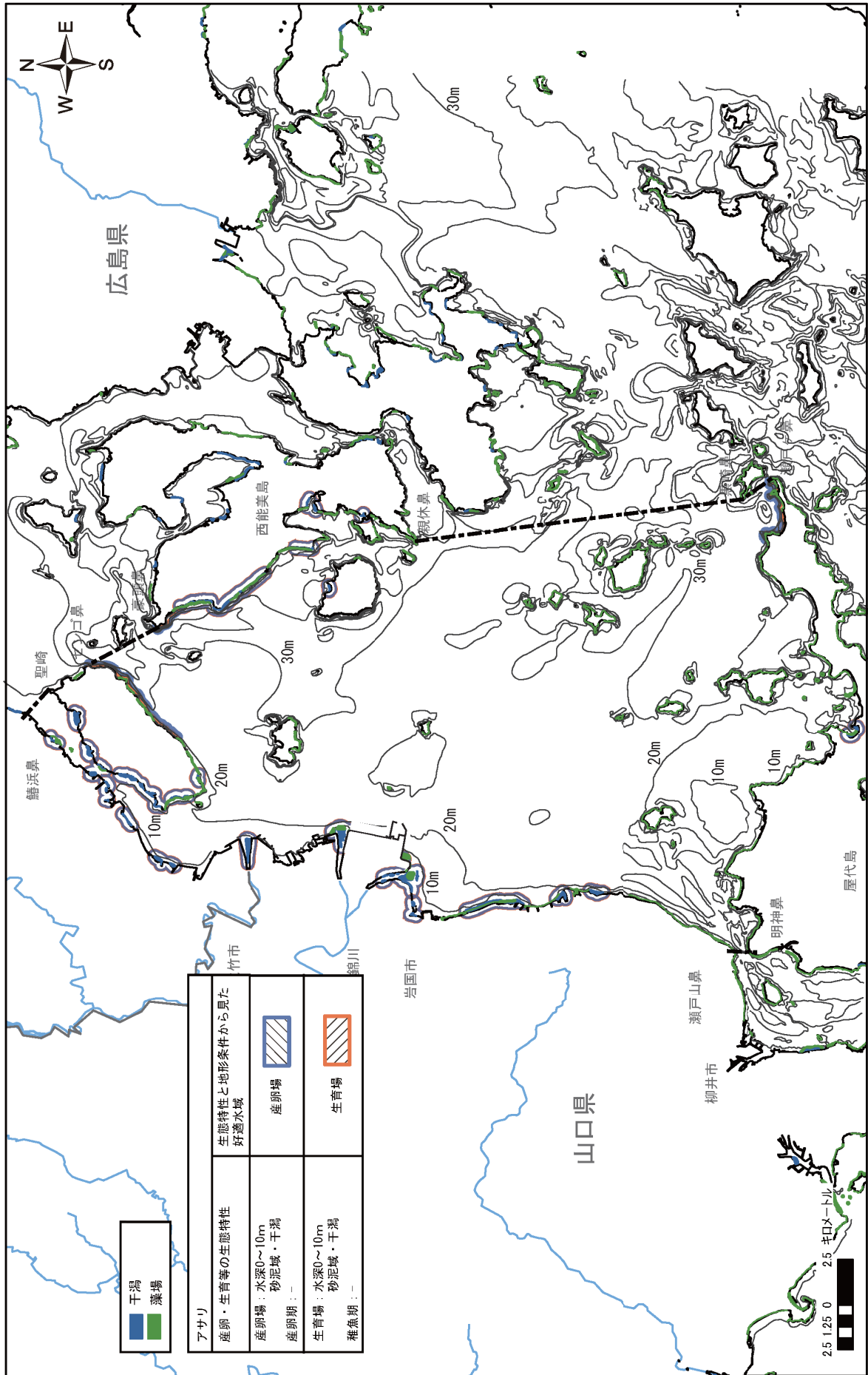
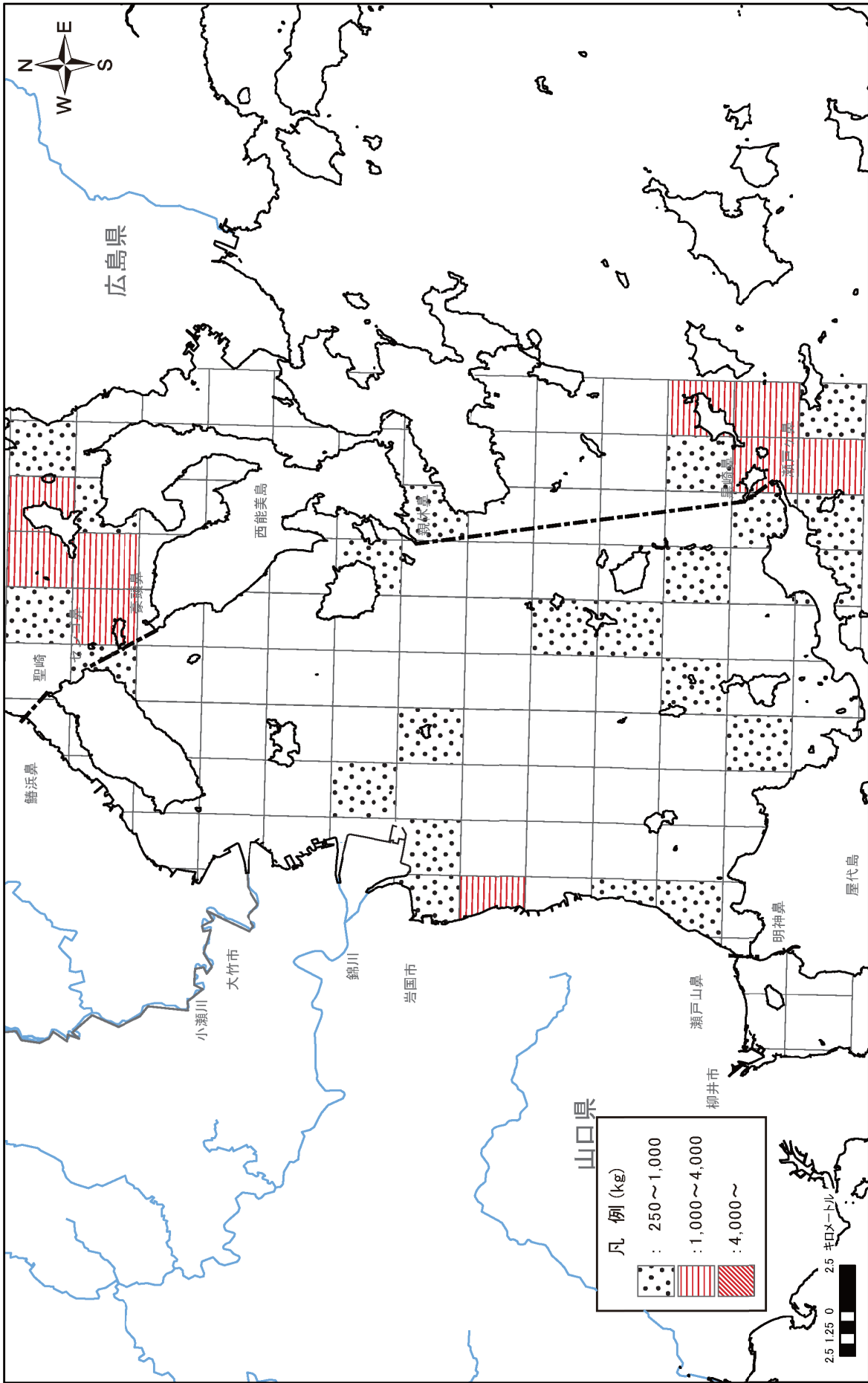


図 2.9(5) アサリの生態特性・海域の地理条件及び水質条件から見た好適な水域（産卵場・生育場）

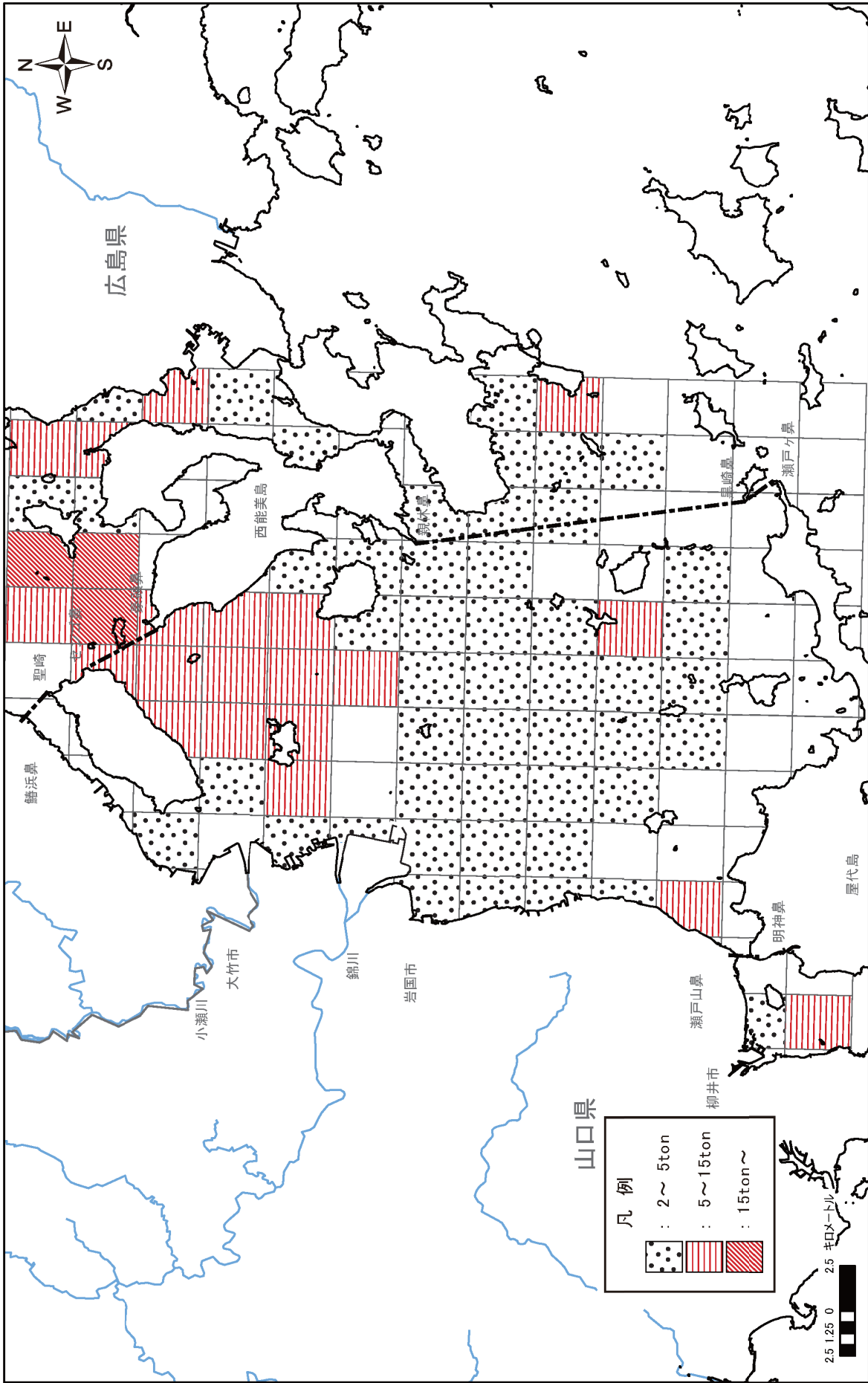
表 2.6 主要魚介類 5 種の漁場分布からみた干潟・藻場等の利用状況

魚種	産卵場として利用されていると考えられる干潟・藻場等
スズキ	南部の干潟（沢潟海岸～通津美ヶ浦周辺）
カレイ類（マコガレイ・イシガレイ）	北部の浅場
マダイ	北部及び南部の浅場
アサリ	北部及び西部の干潟（今津川河口・岩国基地堤防前）



出典：水産庁：漁場環境評価メッシュ図，瀬戸内海（平成11年3月）より作成

図 2.10(1) 主要魚種の漁場分布図（スズキ）



出典：水産庁：漁場環境評価メッシュ図，瀬戸内海（平成11年3月）より作成

図 2.10(2) 主要魚種の漁場分布図（カレイ類）

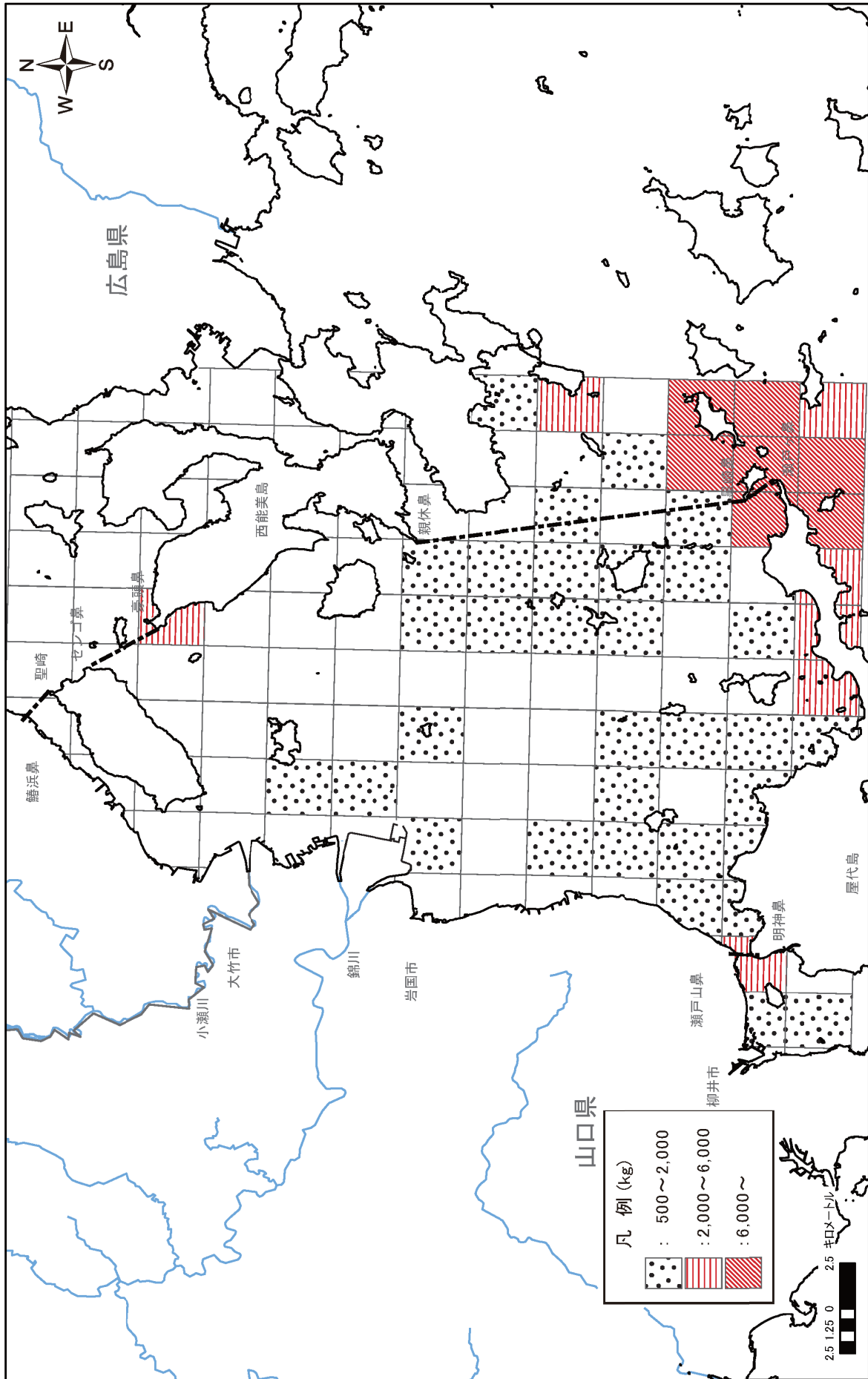
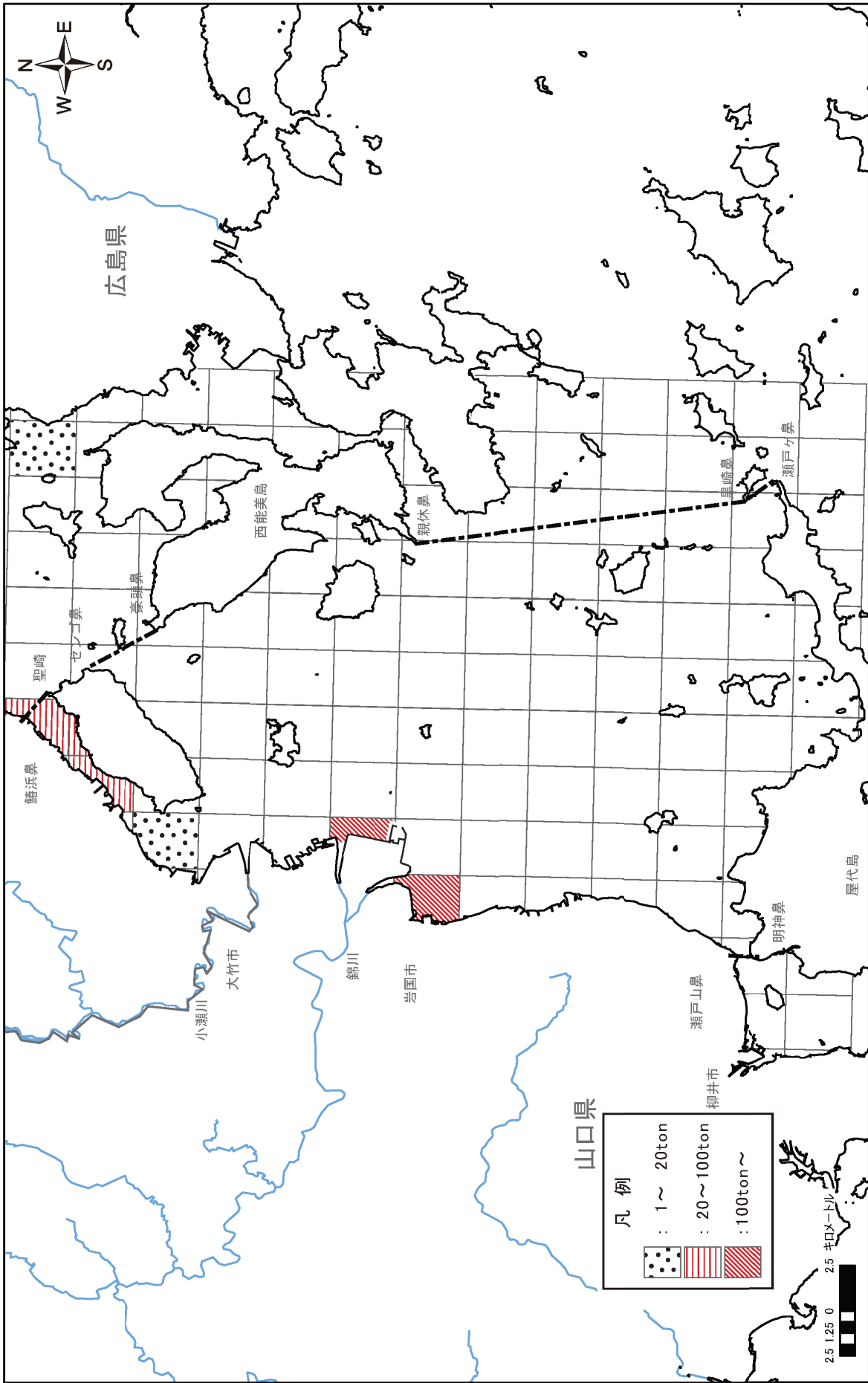


図 2.10(3) 主要魚種の漁場分布図（マダイ）



出典：水産庁：漁場環境評価メッシュ図，瀬戸内海（平成11年3月）より作成

図 2.10(4) 主要魚種の漁場分布図（アサリ）

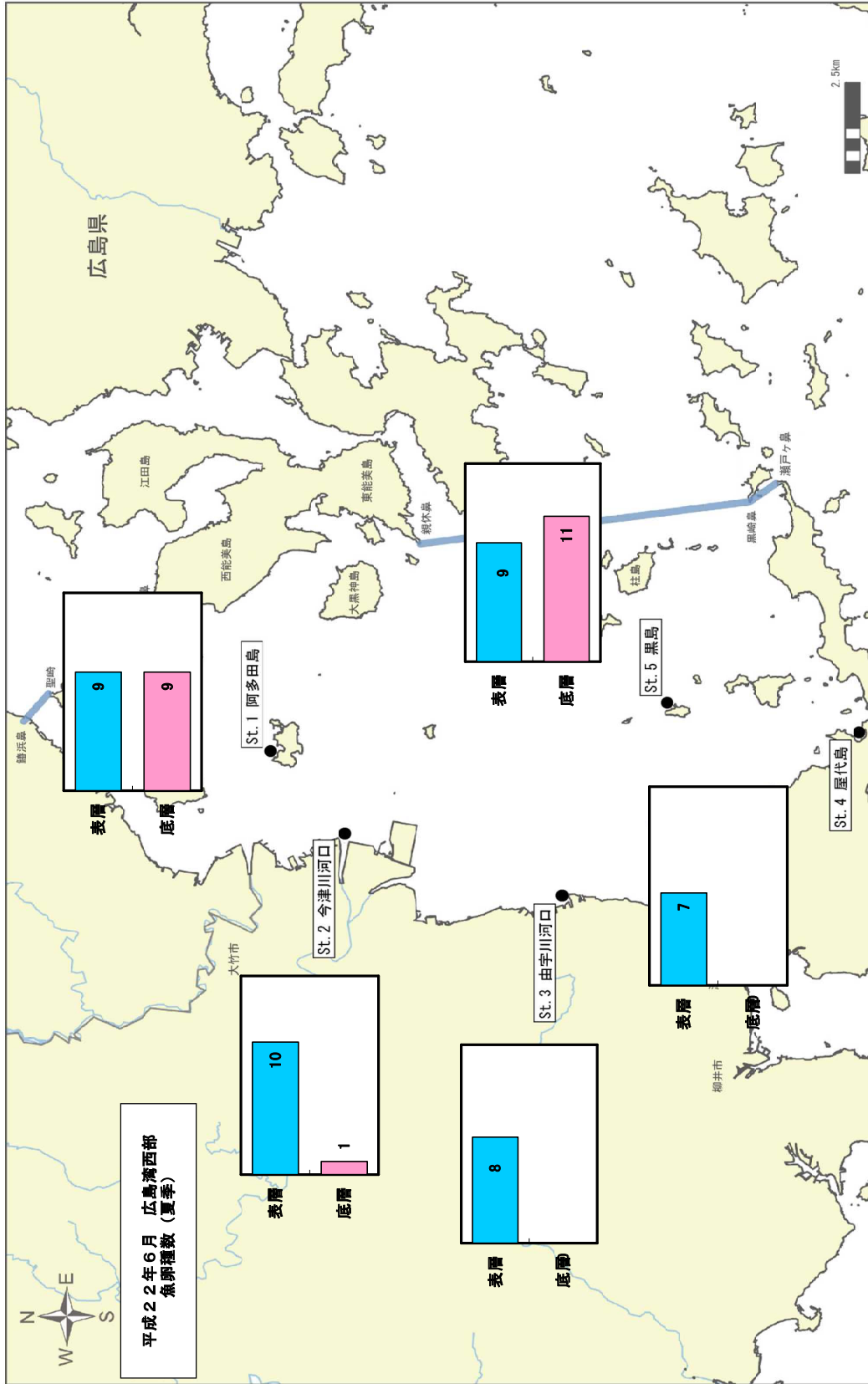
表 2.7 主要魚種の産卵場及び生育場について

主要魚種名	現地調査結果等のまとめ
スズキ	卵は北部の島しょ部藻場、北部の干潟・藻場、南部の島しょ部藻場において、稚仔魚は全地点で観察された。広島湾西部にはスズキの産卵に適した場所はないことから産卵場としての利用の可能性は低いと推定した。生育場については、現地調査及びヒアリング調査結果、既存資料（親魚の分布域を示す漁場環境評価メッシュ図）から、北部の浅場、南部の浅場を利用している可能性が高いと推定した。
マコガレイ	卵は南部の島しょ部藻場で確認されたが、稚仔魚は確認されなかった。現地調査及びヒアリング調査結果、既存資料から、産卵場及び育成場として北部の浅場、南部の浅場を利用している可能性が高いと推定した。
イシガレイ	卵は北部の島しょ部藻場、南部の島しょ部藻場において、稚仔魚は南部の島しょ部藻場において確認された。現地調査及びヒアリング調査結果、既存資料から、産卵場及び育成場として北部の浅場、南部の浅場を利用している可能性が高いと推定した。
マダイ	卵は北部の島しょ部藻場、北部の干潟・藻場、南部の干潟、南部の島しょ部藻場において、稚仔魚は南部の島しょ部藻場において確認された。広島湾西部にはマダイの産卵に適した場所は少ないが、既存資料では産卵場が確認される。生育場については、現地調査及びヒアリング調査結果、既存資料から、北部の浅場、南部の浅場を利用している可能性が高いと推定した。
アサリ	卵は確認されなかったが、稚貝は北部の干潟・藻場で確認された。現地調査及びヒアリング調査結果、既存資料から、産卵場及び生育場としては北部の浅場、南部の浅場を利用している可能性が高いと推定した。

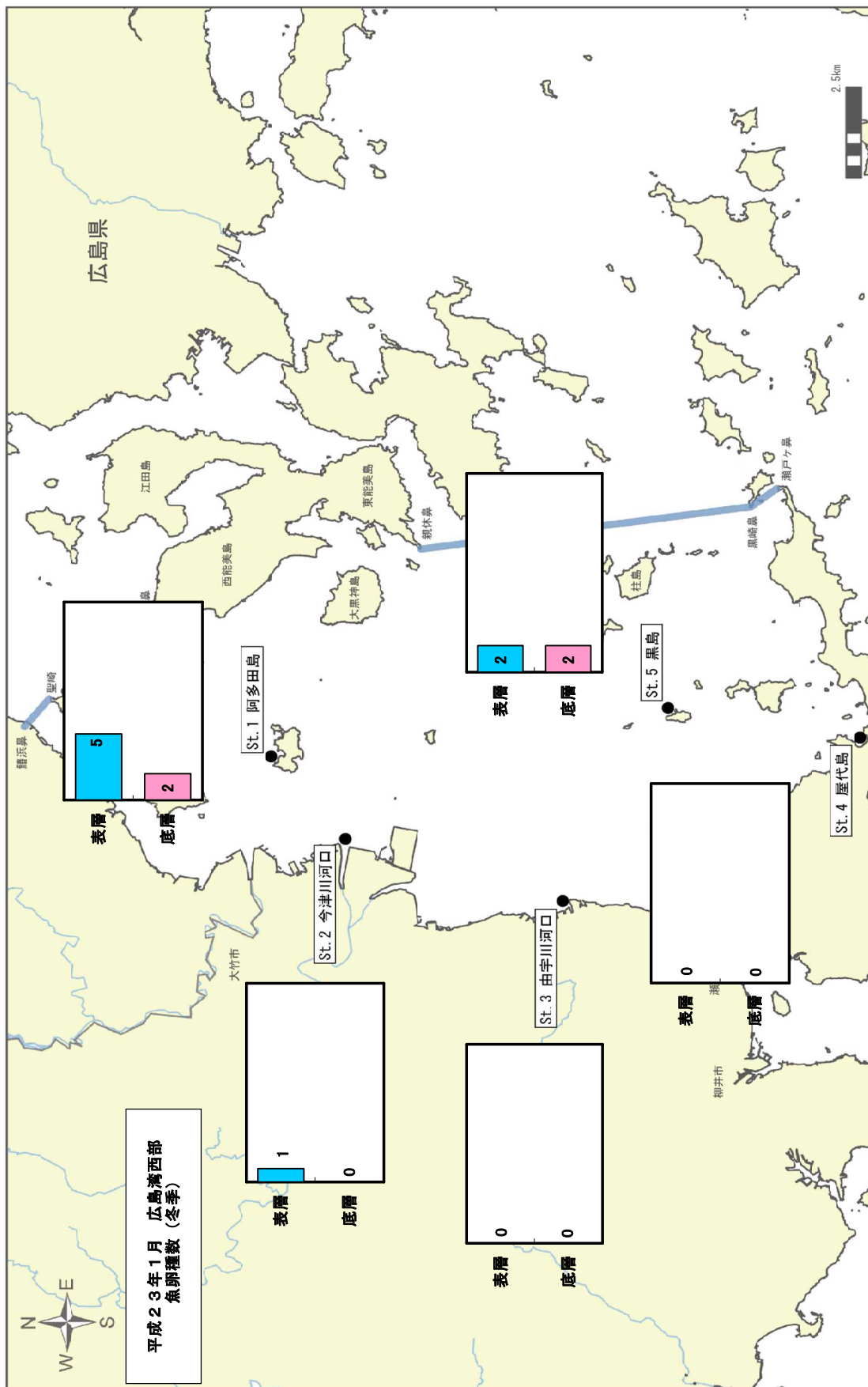
既存資料：漁場環境評価メッシュ図，瀬戸内海（平成 11 年 3 月、水産庁）

我が国周辺水域の漁業資源評価（平成 27 年、水産庁・水産総合研究センター）

出典：「平成 22 年度水生生物類型あてはめに係る生物生息状況調査業務 報告書」により作成



出典：「平成22年度水生生物類型あてはめに係る生物生息状況調査業務報告書」により作成
 図 2.11(1) 魚卵種数の出現状況 (夏季)



出典：「平成22年度水生物種類型あてはめに係る生物生息状況調査業務 報告書」により作成

図 2.11 (2) 魚卵種数の出現状況 (冬季)